

広告

企画・制作 LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会

スーパーバイザー
小山 薫堂氏

1964年6月23日 熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科に通う。「進め!電波少年」や「料理の鉄人」など、数多くのヒット番組の企画・構成に携わる。執筆活動の他、京都造形芸術大学副学長、地域・企業のアドバイザー、下鴨茶寮主人などを務める。「くまモン」の生みの親でもある。



1月24日、プレゼンテーションにて

LEXUS NEW TAKUMI PROJECTは、日本各地で地域の独自性や技術を生かし、新しいモノづくりに挑む「匠」を応援する。本プロジェクトは2016年、プロジェクトのスーパーバイザーに放送作家として多くのヒットトを手がけ、くまモンの生みの親である小山薰堂氏を迎え、生駒芳子氏(ファッショニ・ジャーナリスト)、アート・プロデューサー)、下川一哉氏(意匠研究所)らをサポートメンバーに発足。以来、全国の若き匠の挑戦が刻まれたプロダクトは、ふるさと納税の返礼品への指定やロックフェラーハ主催のチャリティイベントへの出品、上海での国際的な展示会への出品など、目覚ましい活躍を見せており、3年目になった今回は、全国47都道府県から計50名の若き匠を選出。昨年夏、レクサスギャラリー高輪で行われたキックオフ・セッションを皮切りに、サポートメンバーが実際に工房を訪ねるエリア・コンサルティングを経て、匠は自身のアイデアを磨きプロダクトの制作に取り組んだ。

1月24日、東京ミッドタウン日比谷で行われた発表会では、国内外の百貨店・セレクトショップ・バイヤー・メディア・デザイン関係者

の指定やロックフェラーハ主催のチャリティイベントへの出品、上海での国際的な展示会への出品など、目覚ましい活躍を見せており、3年目になった今回は、全国47都道府県から計50名の若き匠を選出。昨年夏、レクサスギャラリー高輪で行われたキックオフ・セッションを皮切りに、サポートメンバーが実際に工房を訪ねるエリア・コンサルティングを経て、匠は自身のアイデアを磨きプロダクトの制作に取り組んだ。

レクサスが日本全国の「匠」のモノづくりを応援



プレゼンテーションの様子

「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」(主催:LEXUS)は、日本各地で地域の独自性や技術を生かし、新しいモノづくりに挑む「匠」を応援する。

「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」(主催:LEXUS)は、日本各地で地域の独自性や技術を生かし、新しいモノづくりに挑む「匠」を応援する。

「本物志向」のものを作りあげたい



工房でのエリア・コンサルティング

「育み椀(はぐくみわん)」と名付けた今回のプロダクト。幼いころから本物の「木」に触れ、ともに健やかに成長してほしいとの願いを込めました。そこにストーリーを加えたり、そこでメッシュージ性を高めていった。これまで何度も何度も取り組んできた子どもたちが、これまで幾度も用食器、甥が産まれ、「何か、プレゼントを作つてあげたい」と考えたのが作り始めたきっかけだった。これまでもさまざまごとセッティングなど温かみのある作品を手掛けてきた。

ただ、今日はこれまでのプロダクトと違い、「実際に使えて、全国の匠と、世界的クリエイター(コラボレーション)」が、新たなプロダクトを制作するコラボレーションプログラムを発表。コラボレーターである隈研吾氏(建築家)、廣川玉枝氏(SOMARTAクリエイティブディレクター)、森永邦彦氏(ANREALAGE代表取締役社長・デザイナー)、辰野しづか氏(クリエイティブディレクター)、プロダクトデザイナー)が登壇しました。木を選別しなくなったり、木も子どもと同じ。それができ、特にその思いは強くなりました。木を選別しなくなったり、木も子どもと同じ。それができ、特にその思いは強くなりました。木を選別しなくなったり、木も子どもと同じ。それができ、特にその思いは強くなりました。木を選別しなくなったり、木も子どもと同じ。それができ、特にその思いは強くなりました。木を選別しなくなったり、木も子どもと同じ。それができ、特にその思いは強

鳥取に残る手仕事を伝える。知つほしい

鳥取に残る手仕事を伝える。知つほしい

なった、地元青谷上寺地遺跡から出土した朱の鮮やかな五弁の花弁高杯を模した「やよい」。

普段から「材種には特にこだわらない」。切り出す材種が偏ることで山の健康を損ねぬよう、有る材料を使いたいとの思いから。自身に子どもが、特にその思いは強かった。木を選別しなくなったり、木も子どもと同じ。それができ、特にその思いは強かったです。木を選別しなくなったり、木も子どもと同じ。それができ、特にその思いは強かったです。木を選別しなくなったり、木も子どもと同じ。それができ、特にその思いは強

だわらない」。切り出す材種が偏ることで山の健康を損ねぬよう、有る材料を使いたいとの思いから。自身に子どもが、特にその思いは強かったです。木を選別しなくなったり、木も子どもと同じ。それができ、特にその思いは強かったです。木を選別しなくなったり、木も子どもと同じ。それができ、特にその思いは強

だわらない」。切り出す材種が偏ることで山の健康を損ねぬよう、有る材料を使いたいとの思いから。自身に子どもが、特にその思いは強かったです。木を選別しなくなったり、木も子どもと同じ。それができ、特にその思いは強

だわらない」。切り出す材種が偏ることで山の健康を損ねぬよう、有る材料を使いたいとの思いから。自身に子どもが、特にその思いは強かったです。木を選別しなくなったり、木も子どもと同じ。それができ、特にその思いは強

幼いころから本物の「木」に触れ、とともに健やかに成長してほしい

藤本かおり
鳥取／木地師



花弁高杯の五弁を模した「やよい」

受け継いだ技術を守り伝えたい



工房での作業風景

在である「葉っぱ」を描いてもらい、イラストカードにして作品に添えた。

「アルバムに食事の写真と一緒に挿んでもらえるよう永く使っていただけるように」との思いも、共創により形にできた。

藤本かおり

そこで、その環境が、すばらしい技術を守り伝えていかねばとの使命感を植え付けた。すべてを一人でこなし、創作の中でも苦労も多いが、最近では至らないお互いを活かす技術方法を見つけつつある。

そこで、その環境が、すばらしい技術を守り伝えていかねばとの使命感を植え付けた。すべてを一人でこなし、創作の中でも苦労も多いが、最近